



TOKUYA TIMES

とくや
タイムズ自民党
豊橋市議団
個人版<http://ito-tokuya.com/tokuya>

伊藤 とくや

Spring, 2017, vol.40

スポーツを活かした地方創生を踏まえ、【第2屋内施設】 第2アリーナが果たす役割について

40号発行についてのご挨拶

「三遠ネオフェニックス」は、豊橋市をホームタウンとして B.リーグに所属するプロバスケットボールチームです。

チーム名の「フェニックス」はチーム創設時の「OSGフェニックス」から B.Jリーグ「浜松・東三河フェニックス」を経て「三遠ネオフェニックス」へと受け継がれています。

「ネオ」はギリシア語で新しいを意味し、これまでの不死鳥は新たに再生を遂げ、バスケットボール界の新たな時代を力強く羽ばたいていくという決意の表れと聞いています。

チームを通じ、本拠地「三遠」という愛知県東三河地域と静岡県遠州地域の懸け橋となり、共にスポーツを通じて成長し合うことを目指す象徴でありたいとのことです。

わがまち豊橋も、不死鳥フェニックスとともに再生を遂げ、新たな時代を力強く羽ばたいていく時節が到来しました。



スポーツを活かした地方創生を踏まえ、 本市の第2アリーナが果たす役割の認識と対応について

愛知県は、三遠ネオフェニックス、シーホース三河、名古屋ダイヤモンドドルフィンズと、B.リーグ1部（B1）に3つのチームがホームを置いています。さらに4つめのチームも噂がある、プロバスケが集中している地域です。

■豊橋市は B.リーグホームタウンとしての責務があります。同時に、第2アリーナは豊橋のまちづくりの中核施設です。

■代表的な事例に、新潟アルビレックス BB と、ホームタウン新潟県長岡市のシティホールプラザ「アオーレ長岡」の緊密な関係が知られていますが、バスケットボールチームとまちのつながりは、チームと都市との「市民協働」へ向かっています。

バスケットボールを核とした「市民とともに考える」まちづくりについて伺います。

A 目指すものは、スポーツ振興と地域振興であると考えます。

●スポーツ振興といたしましては、三遠ネオフェニックスの選手による子どもたちを対象としたバスケットボール教室や小学校へのお出前講座の開催など、技術的な指導やネオフェニックスを身近に感じていただくための取り組みを行っています。

●また、地域振興といたしましては、まちなか、中心市街地は市内外から多くの人々が集まり、交流する場所でもありますので、B.リーグやネオフェニックスの魅力、さらには本市の魅力の発信の場所であるとともに、ホームタウンとしての盛り上がりには欠かせない重要な場所であると考えています。

●そこで、豊橋駅構内への応援フラッグの掲示や試合日程の案内表示、商店街店舗への PR ポスターの掲示、歩行者天国での PR ブースの設置、豊橋駅南口広場での「3×3」イベントの開催など、様々な団体がネオフェニックスと連携して取り組んでいます。

●併せて、「観る」側に立った魅力ある会場づくりも重要であると考えています。これまでも、カップボックス付きの移動式観覧席の導入や天井吊り表示板の設置、あるいは、外壁への照明による装飾など、試合観戦にお越しになった来場者にエンターテインメント性のあるわくわく感を呼び起こさせるような環境整備に努めています。

●いずれにいたしましても、スポーツ振興・地域振興がさらに加速するよう、ネオフェニックスをはじめとした関係団体や多くの市民を巻き込みながらともに考え、取り組んでまいりたいと考えています。



👉 人口減少時代への対応、超高齢社会におけるコンパクトシティ化の推進を踏まえ、まちづくりにおいて、地域コミュニティにおけるスポーツ施設の在り方が問われていることや、人類共通の文化であるスポーツによる交流空間を創出することで都市機能が集約できる多機能複合型交流施設「スマート・ベニュー」という考えがあります。

■これは日本政策投資銀行で提唱され、経済産業省、スポーツ庁が立ち上げたスポーツ未来開拓会議でも取り上げられている概念ですが・・・

スマート・ベニューの考え方を踏まえた第2アリーナの検討を伺う

A バasketボールを核とした「市民とともに考える」まちづくりについて、目指すものは、スポーツ振興と地域振興であると考えます。

● スポーツ振興といたしましては、三遠ネオフェニックスの選手による子どもたちを対象としたBasketボール教室や小学校への出前講座の開催など、技術的な指導やネオフェニックスを身近に感じていただくための取り組みを行っています。

● また、地域振興といたしましては、まちなか、中心市街地は市内外から多くの人々が集まり、交流する場所でありますので、Bリーグやネオフェニックスの魅力、さらには本市の魅力の発信の場所であるとともに、ホームタウンとしての盛り上がりには欠かせない重要な場所であると考えています。

● そこで、豊橋駅構内への応援フラッグの掲示や試合日程の案内表示、商店街店舗へのPRポスターの掲示、歩行者天国でのPRブースの設置、豊橋駅南口広場での「3×3」イベントの開催など、様々な団体がネオフェニックスと連携して取り組んでいます。

● 併せて、「観る」側に立った魅力ある会場づくりも重要です。

● これまでも、カップボックス付きの移動式観覧席の導入や天井吊り表示板の設置、あるいは、外壁への照明による装飾など、試合観戦にお越しになった来場者にエンターテインメント性のあるわくわく感を呼び起こさせるような環境整備に努めています。

● スポーツ振興・地域振興がさらに加速するよう、ネオフェニックスをはじめとした関係団体や多くの市民を巻き込みながらともに考え、取り組んでまいりたいと考えています。

伊藤とくや

👉 総合体育館は元々「する」スポーツを主目的とした施設であるため、Bリーグのような「観る」スポーツに対応するためには物理的な限界があり、また、スマート・ベニューの視点からも不利な立地です。

■アリーナとは、本来、ご答弁にもあったように「観る」側にとって快適であり、またスポーツだけでなく様々な屋内イベントに対応できる自由度の高い施設であると思いますが、スポーツ関係者ばかりでなく、多くの市民が、こうしたアリーナを早急に整備してほしいと願っているものと考えますが・・・

第2アリーナ整備に向けて、決断する上での最大のポイントとは？

A **堀内副市長** 今、国においても、観光、スポーツなど、地域の特性を生かした成長性の高い新たな分野に先駆的に、また、積極的に挑戦をする取り組みに対して、課税の特例や規制緩和、地方創生交付金の活用など、さまざまな支援を行って地方の成功事例とする、地域未来投資ということですが、そうした仕組みづくりを進めています。

♣ 第2アリーナの整備は、ただ単にスポーツをする施設、点の整備ということではなく、文化、スポーツ、音楽など、新たなエンターテインメント、魅力を生み出し、また、それが面として広がりを持ち、街のにぎわいや新たな人の流れ、外からの人の流入をつくり出し、まちづくりや地域経済の活性化につながるものでなければならないように考えています。

♣ そうなると、建設場所はまちなかということになるわけですが、その建設や運営手法についても、これまでのように、公共が資金を調達しコストばかりをかけて運営をするというものではなく、それが利益を生み出し、まちづくりに資するものでなければなりません。

♣ また、事業主体についても、民が主導する、あるいは官と民とが協働して行い、民間の資金力、技術力、経営ノウハウなどを最大限に引き出し活用する、そうした新しいスキーム、手法をつくり出していかなければならないわけであります。決断の最大のポイントはまさにそこにあります。

♣ 国の支援を初め、資金面、運営面を含めて、その新たなスキームを官民でいかに構築できるかにかかっています。また、そうなれば公園の整備計画や周辺の整備についても見直しをしていかなければなりません。

♣ したがって、今後、関係者と十分に協議をし、また、議会にもお示しをし、相談をしながら検討を進めてまいりたいというように考えています。

伊藤とくやのおもい

♥フェニックスのホーム試合は年30回しかありませんが、豊橋の新アリーナが未来投資会議で取り上げられたのは、まちなか活性化の期待のほか、民間の整備・運営・ノウハウを活用し、利益（収益－費用）を最大化するプロフィットセンターとなるべく公園の一体整備を目指しているからです。

♥フェニックス以外でも、コンサートや国際コンベンションの誘致、公園法を規制緩和し民間施設の導入などが考えられ、バスケット以外でも、幅広い市民に関係してくることが重要となります。

♥第2アリーナは、スマート・ベニューの考えに基づく持続的発展が可能な交流空間を提供できる多機能複合型施設、周辺エリアマネジメントの視点をとらえたまちづくりの中核施設として、開業効果も考えて、出来ればオリンピックイヤーまでの完成を目指し、まちぐるみであらゆる関係者が、関与し、協力し、支援し、その輪がまさに不死鳥のごとく「フェニックスタウン豊橋」として生まれ変わり、東三河へ、遠州へ広がることを大いに期待する 😊😊😊

あしがき 5月より、あらたな体制による東三河広域連合議会が招集され伊藤とくやは「みらい広域委員会」の委員長を拝命いたしました。キーワードは『東三版DMO』です！

日本版DMOとは、地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協同しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人です。

市政報告会のお知らせ

日付 平成29年8月24日(木)

時間 18時30分より

会場 カリオンビル(松葉町2丁目)

お気軽にお越しください！



発行

伊藤とくや事務所
豊橋市松葉町3-68
FAX: 0532-56-5521
TEL: 0532-53-4556
bbito@mx1.tees.ne.jp
携帯: 090-3855-9696